

(一) 號六十五千二第

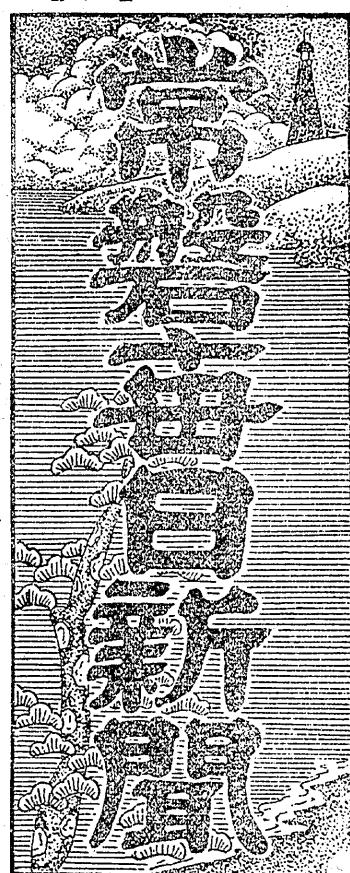
(日曜火)

新 常 每 日 謂

日九月二十年五和昭

(日八月一十年二十正大  
可認物便郵種三第)

【刊夕】日八月二十



厘五十五行一詰字三十號五料告廣  
錢十五行一詰字三十號五料告廣  
治文崎川入刷印人軒編發行發  
五三町橋長町平郡城石縣島福  
番○三六詰電社印日每發常所行發  
會式株刷印日每發常所行發

詩南社  
主催 第二回短歌會記

詩南社主催第三回短歌會は昨七日午後一時より平町マルトモホールにて開催、參會者五十余名あつて頗る盛會を極めたが先づ宮田青波氏の開會の辭に次いて永山、新妻兩氏の歌に關する講演あり終つて兼題「木枯」に就き出詠百三十首中より參會者の記名投票を以て各二首宛互選し之を談笑裡に批判して後夕餐と共に後六時散會した、尙出詠中より抄いて左に擧げておく。

課題「木枯」

夕されば木枯の風静まりて  
松のはやしに残るあかるさ

木枯の巷に据えし慈善鍋小  
錢疎らに砂の溜れる

寒い日だ雪のある山真向ひ  
木を裂きて風ひたはしりう

片寄耿二  
草野牧笛

木がらしのすさまる山や炭  
焼の煙はあをく空にみだる

日並べて荒ぶ木がらし大海  
木がらしのすさまる山や炭  
焼の煙はあをく空にみだる  
る

一面の冬かれにちよんびり  
緑いる人が動いて蜜柑取つ  
てゐる

課題「蜜柑」

白木生

明石濱男

吉岡美佐子

武田美佐子

柏木哲

吉岡獨歩

永山耕山

吉岡獨歩

吉岡獨歩</p



# 磐中五年生が

## 同明血休校決議

### 新校長を排斥

#### 裏面に職員が伏在か

平町立磐城中學五年生二ノ組三十余名は五日午後六時頃學校正明前八幡神社境内排斥のため全校生徒の同盟休校斷行の決議をなした

學校當局は對策を講ずるとともに首謀者の調査を行つ

てゐるが裏面には校長に反感をもつ二、三の職員が伏在する模様であるが今のと

ころでは平穏で全校生徒は足中である

出席して居る、尙諸橋同窓會長その他は目下調停に奔

### 根も葉もない

## 宣傳を生徒に

### 某々が煽動

磐城中學五年生盟休校策事件の主因とも見らるべきは

橋本校長に反感を持つ二、

三教諭が「各教ゆの受持ク

ラスを更にさせる上温厚な

根本、豊内、庄司三教諭を

他に轉校させるかも知れない」と根も葉もなきことを

生徒に宣傳したため生徒は

校長に少なからず反感を持つてゐた矢先某々が生徒を煽動し遂に前記の仕末に至つたものであるが何れにしても磐城中學としては近來ない不祥事といはれてゐる

野營が

昨夜七時頃石城郡高久村神谷作酒醸業大谷喜平方厩屋

午後八時半漸く鎮火した同

家は目下酒造を休業中であ

るが村内屈指の物持ちであ

り損害高一萬圓以上に及ぶ

べく原因是農村男女の密會

との説あるも放火の疑ひあ

り平署から刑事其他出張取

別項磐中同盟休校謀議に關

橋本校長語る

なく暫く猛火は狂ひ廻つて

いたは今回機動演習に際

しては

供の弄火

にては

東京市外尾久町上尾久二一〇和田常太郎方から荒井平

警察署長に宛て藝妓自由廢業の願書を郵送して來た

(一)は實弟某の病氣看護を

藝妓、ぼたん事渡邊八千代

理由として歸家したが五日

東京市外尾久町上尾久二一〇和田常太郎方から荒井平

警察署長に宛て藝妓自由廢業の願書を郵送して來た

(一)は實弟某の病氣看護を

# 吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番



阿部石炭商店

電話二三七番へ

## 御注文は

◎磐城炭礦 正味十貫匁 一俵金卅錢也  
二等炭 品が良く「値は安く」をモットーとする當店は此度破格の格安石炭を販賣開始致します

◎値が安くとも品は悪くはありません  
磐城炭礦の處分的大堀物です、品物の無くならない中で御注文下さい

◎配達は一俵より致します

## レコード破りの石炭大廉賣

磐城炭礦 正味十貫匁 一俵金卅錢也

二等炭 品が良く「値は安く」をモットーとする當店は此度破格の格安石炭を販賣開始致します

◎値が安くとも品は悪くはありません  
磐城炭礦の處分の大堀物です、品物の無くならない中で御注文下さい

◎配達は一俵より致します

番太郎の間ひには答へておらず、お千代は「此の人は何時殺されたかね喧嘩ですか恨みですか」と聞いて

番太郎の死骸(其一)は「お千代には身の丈五尺三寸から、其積りでお出なせへ」  
東京橋場駒刺(米田安義著)と本當に好うござりますかへ

女文字 捕物おぼえ

（其二）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其五）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其六）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其七）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其八）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其九）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十一）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十二）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十三）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十四）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十五）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十六）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十七）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十八）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其十九）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十一）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十二）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十三）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十四）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十五）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十六）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十七）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十八）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其二十九）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十一）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十二）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十三）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十四）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十五）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十六）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十七）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十八）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其三十九）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十一）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十二）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十三）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十四）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十五）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十六）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十七）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十八）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其四十九）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其五十）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其五十一）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其五十二）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其五十三）

東京橋場駒刺

（米田安義著）

（其五十四）

東京橋場駒刺